

KTK

NO.99

後援会費郵便振替口座
01070-7-32145
あらぐさ後援会

あらぐさ通信

編集 集 あらぐさ後援会
編集協力 社会福祉法人あらぐさ福祉会
〒617-0813 京都府長岡京市井ノ内広海道42-3
TEL 075-953-9212 FAX 075-953-9215

新しいスタート

新館工事進む



完成イメージ



工事中の現場



Aグループのみなさん

現在、あらぐさの建物の東側で、新しい建物が造られています。この新館にはデイセンターAグループの新しい居室と地域交流室が出来る予定です。

出来上がっていく様子を「何かなー?」という表情で見つめている利用者さん。地鎮祭の様子を目の前で再現してもらおうと、不思議そうにジューッと見つめたり、大きな重機が窓から見ると「かっこいい!」とにやり。それぞれ楽しみにされている様子です。

4月には完成、引っ越しをして新しい居室での生活が始まります。みんなが気持ちよく過ごせるように考えてきたものが、気に入ってもらえるかドキドキしながらも、新館が完成するのを楽しみにしています。

地域の仲間と拓く 琴さんの笑顔

——「ガタガタ道 のぼり坂」でも——

はじめに

琴さんは28歳。舞さん、桜さんと3人姉妹のま
ん中です。家にはお父さんとお母さん、第二子を出
産した舞さんが長男を連れて帰ってきています。

近所にはおじいちゃんがあります。いつも琴さんの
世話をしてくれていたおばあちゃんは、今、施設に
入居しています。

あらぐさでは、マープリングや野菜スタンプ、多
肉植物の栽培をしています。

生いたち

琴さんは生まれた時はうるさい程の元気な赤ち
ゃんでした。生後1か月の頃、実家のおばあちゃん
が「琴ちゃんと目があわない」ことに気づきました。
保健所から民医連中央病院の玉本先生を紹介しても
らいました。そして聖ヨゼフ整肢園に母子入院をし
て訓練をはじめました。1級の障害者手帳も交付さ
れました。



8か月になって向日が丘療育園に母子通園をは
じめました。妹の桜さんが生まれ、彼女を保育所に

入れないと、療育園への通園ができなかったので、
行政に訴えにいきました。

琴さんは3歳から向日市第1保育所に入りました。
2歳になってひんぱんに発作がおきていましたが半年を過ぎると、発作はなくなり、高3になるま
で落ち着いていました。

琴さんには生活のリズムがとても大切で、保育所
を土曜日、日曜日休むと、月曜日、火曜日はほとん
ど寝ているといった感じで、先生も困っていました。
それで土曜日にも通園できるようになり、だいぶよ
くなりました。生活のリズムの大切さは大人になっ
ても同じでした。

休みの日は自宅で朝食兼用の食事をするので体調
が悪いわけではないのに、2日間程何も食べようと
しない事がありました。きちんと3食を食べるよう
にしてからはよくなりました。

就学の時期になり、琴さんの「学びの場」として、
向日が丘養護学校へ入学しました。学校では毎日、
装具をはいて立つ訓練やお座り、寝返りなどの訓練
をしました。先生の膝にのってブランコ遊び。家では、
ブンブンふりまわしてもらって大喜び！元気い
っぱいでした。

また琴さんは小型のキーボード（カシオトーン）
をうつぶせで叩くのが上手でした。小さい時から何
台も遊んでつぶしてしまいました。

地域で

向日が丘養護学校に就学して放課後は保育所で
いっしょだった友達がいる、向陽小学校の学童保育
に入れたいと思いました。保護者説明会に琴さんを
連れていって「この子をお願いします」と伝えまし

た。保育所のお母さん達が「みんな応援しているよ」と言ってくれました。最初は「門前払い」でしたが、地元の議員さんも動いていただき、学童保育所への入所が決まりました。

放課後スクールバスのバス停から学童保育所への送りを社協のヘルパーさんが担当してくれました。学童の遠足やキャンプでは、指導員の方々や他のお母さん達が琴さんの世話をしてくれました。



お母さんが一番嬉しかったのは、仲良しの友達のお母さんが、お誕生会に琴さんを招待してくれたことです。「子どもどうして遊ぶから、お母さんについてこなくていいよ」と琴さんを受け止めてくれました。

学童保育の中では、加配の先生と子ども達も琴さんを含めて遊ぶ方法を考えていました。指導員、保護者、子ども達、みんなが琴さんを一人の児童として自然に接してくれました。これらのことは、お母さんと琴さんにとって、「一生の宝物」になっています。

最近のこと

琴さんは高校生の頃から人の話し声や楽器の音などが苦手で不機嫌になるようになりました。

高校生の時、発作が再発して済生会病院で治療をしています。今はてんかんの薬や安定剤などたくさん

薬を飲んでいきます。

月曜日の朝、琴さんはおしいちゃん宅に居宅サービスのヘルパーさんに来てもらい、「あらぐさ」の送迎車が迎えに来るまでの時間を過ごしています。

ショートステイは自費でひまわり園を利用しています。人手不足と定員がいっぱいで利用ができません。

お母さんのこと

お母さんは生活クラブ京都エルコープから委託された配送業務を、5名のメンバーで運営しています。

夜の9時に仕事が終わわり、ジムに行って体力づくり。帰宅は11時頃になります。休日はすべての事務処理、一週間分の家族の食事作りをします。

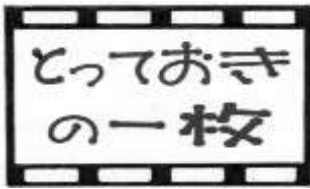
先日、エルコープの研修で障がいのある人のことを話す機会がありました。そこで次のような話をしました。

「だれも障がいを持って生まれてきたいわけではない。琴は自分を犠牲にして生まれてきてくれた。人類、生物の中には傷つくものが必然的にでてくる。障がいのある人達はそれを一手に引き受けている。その犠牲の上に社会は成り立っていると思う。親として自分が琴に返せること——普通の子と同じように自立していける力をつける。自立して暮らせる条件をつくる。琴は琴、自分の人生を生きる。多くの仲間ができ、たくさんの人に支えられてきた。」

お母さんの願いは、生まれ育ったこの街で慣れ親しんだ人達と365日「ケアホームいろどり」で安心して暮らせるようになることです。

(取材：前田幸子 真殿尊子)





おつかれさん会



昨年12月26日にデイセンター2で年末行事「おつかれさん会」を行いました。毎年恒例の行事で、この時期になると、みなさん「今年は何をしようかな?」と、とても楽しみにされています。今回は、歌や劇などの出し物、ケーキ作り、プレゼント交換をしました。

おつかれさん会は、自治会で利用者さん同士が相談をしながら内容を決めていきます。何か新しいことをしてみたいということで、ケーキ作りをすることになりました。「どんなケーキ?」「いちごのせる?」と、みなさんたくさん意見を出して進めていきました。買い出しの人やケーキ作りをする人、ジュースを入れる人など、それぞれ係を分担して取り組みました。

出し物での司会で、緊張する姿や思いきりうたっている姿。ケーキ作りで、真剣に取り組んでいる姿や、プレゼントをもらって喜ぶ姿など、普段と違う姿をたくさん見ることが出来ました。おつかれさん会が終わるとすぐに「次はどうしようか?」と気にしている利用者さんもありますが、今年もみなさんと相談して楽しい会にしていきたいと思います。

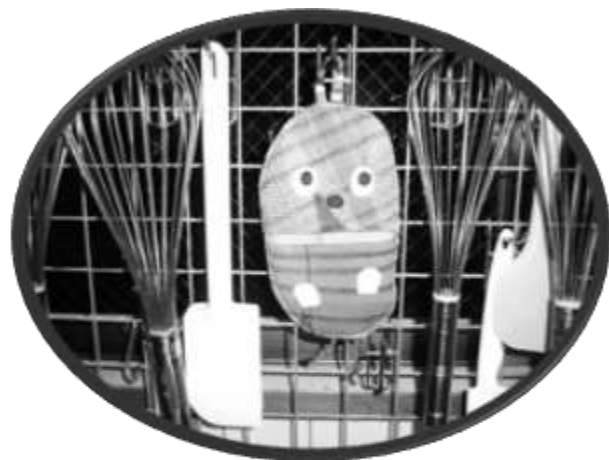
製品紹介

鍋つかみ

「ぱっくん」

ワークセンター

1つ 1,000円



ワークセンターでは利用者の方が毎日ステキな布を織りあげています。今回冬のカタログに掲載させて頂いた鍋つかみ「ぱっくん」は日々の生活の中でもさをりに触れてもらいたい…と思い作りました。心が和み、ちょっぴり笑顔になれる製品作りを心掛けています。

これからも、さをり織りを身近に感じてもらえる製品を利用者の方と一緒に考えていきたいと思います。

【お問合せ・ご注文】

障害福祉センターあらくさ

電話 075-953-9212

皆様のご来場をお待ちしています！

創XV ～えがおの手しごと展～

- ◆2018年 3月3日（土） 正午～午後5時
- 4日（日） 午前9時～午後5時
- 5日（月） 午前9時～午後3時

入場無料

- ◆長岡京市立産業文化会館 1階大会議室
- ◆テーマ展示 〈アクセサリー〉
- ◆さをり織り、染め、フェルト作品など多数展示

障害福祉センターあらぐさ 職員

みやなぎ
三柳 美里 さん



4月から、Bグループに配属された三柳美里です。保育士として障害のある子ども達を担当した経験等を活かしたく、福祉分野の就職活動であらぐさ福祉会のお話を聞かせて頂きました。以前からバザーや手作り市が好きな私は、あらぐさのパンフレットに紹介されていたフェルト作品や、さをり織りの色が鮮やかで、素敵な印象を受けました。利用者さんの活動に興味を持ち、一緒に支援し、製品を作りたい思いからあらぐさで働かせて頂くことになりました。

働き始めて驚いた事は、午前、午後ともに色々な活動をしており、一人ひとりに合わせて丁寧に支援をされていることでした。私は利用者さんの動き出しが持ちきれず、ついつい手伝いすぎてしまったこともありました。そんな時も、利用者さんの思いを

大切にしながら関わることを職員に丁寧に教えて頂きました。利用者さんたちの手による作品はどれも温かみがあり、思いが詰まった素晴らしい作品に思います。

初めはどのように関わって、言葉をかけていいのか分かりませんでした。日々利用者さんと接する中で、活動のスケジュールを見せてくれて、好きな職員の話をしてくださったときや、私の名前をたずねると、名前を覚えていて呼んでくれた時は感動しました。利用者さんが何を伝えようとしているのか、どんな思いを持っているのかを感じとれる様に日々学びながら、利用者さんと楽しく活動に関わっていきたいと思います。これからもよろしくお願ひします。



あらぐさひろば 開催

昨年10月29日、あいにくの雨降りでしたが、『みんなおいでよ～あらぐさひろば』が開催されました。金管楽器や和太鼓の演奏、模擬店やバザー、遊びのコーナー、福引きなど、笑顔で楽しむ参加者でいっぱいでした。

雨天の中たくさんの方にご協力いただきました。ありがとうございました。

いよいよ9月に きょうされん全国大会



右・三浦さん
左・鞍貫さん

きょうされんは、「あたりまえに働き、えらべる暮らしを」をスローガンにしています。国会請願行動や政策提言、要望活動などに取り組み、障害のある人たちの豊かな生活を目指して活動する全国組織です。

毎年、各地で「きょうされん全国大会」が開催されており、2018年には京都で19年ぶりに全国大会が開催されることになりました。”きょうされん”について知る、良い機会だと思うので、担当職員の鞍貫さんにいろいろと聞きたいと思います。（聞き手：三浦編集委員）

三浦：早速ですが、きょうされん全国大会についてインタビューしていきますね。よろしくお願ひします。

鞍貫：はい、こちらこそよろしくお願ひします。

三浦：2018年9月に「きょうされん全国大会 in 京都」が開催されるそうですね！どのようなプログラムなのですか？

プログラム内容・・・

鞍貫：京都大会では、障害者の権利に関する条約（以下、障害者権利条約）を改めて学び、広めていこうという思いがあります。そこで1日目のシンポジウムでは、2006年に障害者権利条約が国連で採択される際に、議長を務めておられたドン・マッケイ氏をお招きすることが決まっています。こういった経緯で、この条約が作られたのかを同時通訳で聞くことができます。障害者権利条約を学ぶことは、障害者福祉に関わるすべての人の道しるべになると思いますのでぜひ聞いて頂きたいですね。

他にも、学習ができる分科会があり、利用者の方々が、主体となってすすめるステージ企画や、京都の町の観光を楽しむ企画もあります。誰でも参加しやすい内容がそろっています。

大会参加者・・・

三浦：全国から集まってくるということですが、どのぐらいの人が集まるのですか？

鞍貫：はい、大会の参加者目標は4000人で、ボランティアも800人を目標にしています。全国規模の大会を作り上げていくのは私も初めてなのでドキドキしながら取り組んでいます。利用者実行委員という組織を設けており、利用者の意見を基に進めています。あらぐさ福祉会からも実行委員として会議に参加しているのですよ。

三浦：利用者さんと一緒に作り上げていくなんで素敵ですね。実行委員ではどのようなことを話しているのですか？

実行委員会の活動・・・

鞍貫：大会のオープニングや交流会での出し物などでどんな発表をするのか、実行委員が各事業所から案を聞き取り、会議で話し合います。大会のテーマソングも作ったのですが、希望の葉（願い事を書く）を各事業所に呼び掛けて書いてもらい、その願いを歌詞にしました。大会キャラクターを利用者さんから公募したりもしているのですよ。

三浦：テーマソングや大会キャラクターがあるとなんだか盛り上がりますね！規模の大きな大会ということで大変な部分もありますが、とても大切な、意味のある大会内容ですね。あと半年ですもんね。大会成功に向けて一緒に頑張りましょう。

鞍貫：はい、皆さんと力を合わせて作り上げていきたいと思っています。

あらぐさ後援会 加入・募金 ありがとうございます

平成29年8月1日～12月31日 敬称略・順不同

浅田光代 芦田幸子 荒木満 粟田士郎 粟田
紀江 栗野賢 池田芳子 池辺俊太郎 石井憲生
石野拓 石野洋子 石原洋子 伊藤勝久 伊藤
憲一 井上治夫 井上はる奈 今井和子 今井正
今井正 今井千代子 岩倉美希 岩崎泰子 岩崎
英雄 上田晃圓 梅本三枝子 浦さち子 大江潤
大江貴光 大江延佳 大城まゆみ 大谷智子
大坪晴美 大橋生人 乙訓医療生活協同組合
小原明大 医療法人社団片岡診療所 門野陽子
菊井誠 北達美由紀 木村嘉男 京都府立高教組
向日が丘支援学校分会 京都府立向日が丘支援学
校PTA 草野廣 窪島敏子 鞍貫梢 黒木
サキ子 上坂愛子 小林正美 小林美恵子 小林
保太 近藤健二 崔本鐘光 坂下三良 坂下佳子
佐々木久子 澤月子 塩満浩 塩満喬子 志賀
妙子 四方政則 嶋本芳輝 嶋本美恵 新免
富美子 住田珠江 瀬川光子 節田もと 竹下誠
武山彩子 多田美智恵 立山純治 田中洋行
田中正恭 田沼立也 津田拓也 寺内寿 東宮
健史 東宮靖武 富島ますみ 富田達也

豊田信子 長岡天満宮 中川耕二 中川政之
中川千津子 中田あづさ 中野円 中野史子
中野司 中村時雄 中村文子 中村雄策 中山
千恵子 中山輝代 西野由美子 西村栄治 仁村
佳與子 株式会社ハウジングステーション代表取
締役山下吉昭 橋本さつき 長谷川長昭 林節雄
林広子 原田正雄 ぱんだ企画 ビューティサロ
ンナティ 平塚洋子 廣岡富美子 廣瀬彩子
福井共子 ベーカリーセルフイーユ 別府哲
前田知臣 増田尚 松浦佳織 松岡稔 松永里子
松村誠 松山幸次 丸岡敏夫 丸岡正子 丸岡
勇毅 丸山彰子 水谷和夫 水谷美穂 三谷文菜
三野真里奈 三宅州人 三宅善昭 宮崎俊一
村田清子 森清 森上郷 森下洋子 八木勝光
八木千代子 安井洌 安井鈴美 有限会社ヤスイ
カメラ 山口隆史 山根信子 山本弥生 (株)ユ
ニバーサルホームサービス 横川和男 横川
喜美江 横川安子 吉田治子 吉永安昌 吉永
雄司 吉永和子 匿名 25名

2017年度あらぐさ後援会

会員更新がまだお済みでない方は、同封
の振込用紙にてよろしくお願ひします。
ご入金と行き違いになりました場合は、
なにとぞご容赦ください。
あらぐさ支援募金にもご協力をお願いし
ます。

あたりまえに働きえらべる暮らしを
～障害者権利条約を地域のすみずみに～
きょうされん第41次国会請願署名・募金
運動へのご協力をおねがひします

詳細は別紙をご覧ください

1992年6月5日 第3種郵便物承認(毎月1回25日発行) 2018年2月10日発行
KTK増刊通巻第4692号 発行所 京都障害者団体定期発行物協会
〒602-8143 京都市上京区堀川通丸太町下ル中之町519 京都府社会福祉会館4階
京都駅南口内 発行人 高谷修 頒価50円(購読料は会費に含まれています)

KTK
あらぐさ通信